

国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	石塚 和洋	学校名	私立 新潟青陵高等学校
教科（科目）・領域	総合的な探究の時間	対象学年（人数）	2年8組（38名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2020年 4月 ～ 2月（12時間） 12月7日（月）7限		

【実施概要】

1. 単元名(活動名)：未来予創図 プラン：「それって持続可能？ 私たちの「責任」を考えよう」					
2. 実践する教科・領域： 総合的な探究の時間 「未来予創図プラン」 ～社会課題を自分ごとに～	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： ①プラスチックゴミについて、減少しているレジ袋使用量、着なくなった衣類のリサイクル・リユースなどの社会課題の現状を知り、「つかう責任」についてどのような行動ができるかを考える。 ②プラスチックゴミ、レジ袋、衣類など「生産」と「消費」の持続可能性を整理し、生産者と消費者のそれぞれの責任について考え、身近な自身の課題であることを認識したうえで、自分の意見をもつ。					
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	海洋ゴミなどの現状や気候、生態系などの地球環境に及ぼす影響を理解している。			
	②思考力、判断力、表現力等	プラスチックゴミが与える影響と考えられる解決策を説明でき、また自分の考えを持ちあわせている。			
	③学びに向かう力	他者と意見や考えを交わしながら協働し、解決へ向けた具体的な行動まで結びつけることができる。			

6. 単元設定の理由・単元の意義
(児童/生徒観、教材観、指導観)

【単元設定の理由あるいは単元の意義】

- ・社会やビジネスにおいて将来の予測が困難になっている時代において「正解のない問題」「正解が複数ある問題」に対して、自分なりの意見や考えをもつことの重要性に気付かせたい。
- ・ユニクロ・GU「服のチカラプロジェクト」に参加しているが、服の他にも身近な「使うモノ」についての現状を理解し、自分たちにできることを考える場としたい。
- ・ウイズ (ポスト) コロナの世界で、「衛生」と「環境」、「環境」と「経済」、「経済」と「人」とのバランスなどを考え、どう折り合いをつけていく必要があるのかを理解する機会にしたい。
- ・SDGsの目標やスローガンなどに沿って行動することが、社会にどのような変化をもたらすことができるかを伝え、教育が果たす役割についても触れたい。

【児童/生徒観】

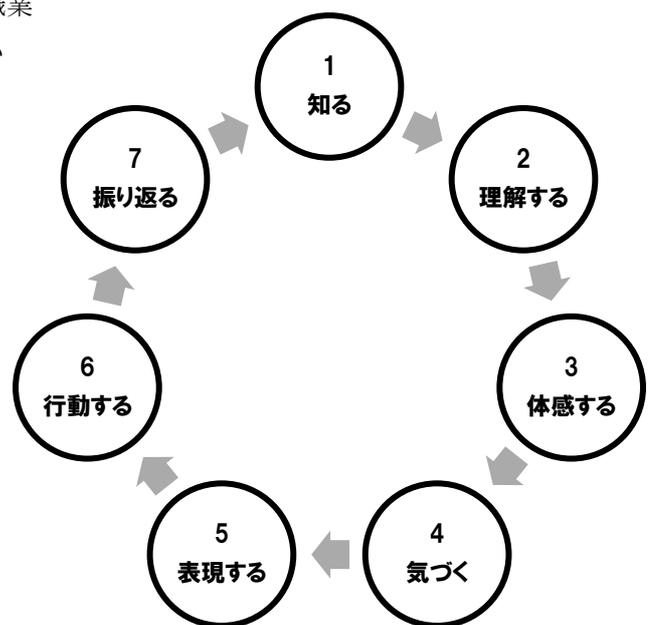
環境問題や不平等、貧困などに対して、問題意識はあるが具体的にどう行動してよいかはわからないようだ。また、国際社会の役に立ちたいという思いはもっており、「きっかけ」を示してあげることで具体的な行動につながると思われる。

【教材観】

ニュース動画は地元新潟の企業が関わっていること、高校生が声をあげたという点で、本校生徒も身近に感じられると考えられる。講演を聞いたりや体験することを通して、難民や海洋プラゴミも身近なものとして捉えることができる。

【指導観】

昨年から書籍や新聞を使い、SDGsの知識は概ねインプットしてきた。2年生では、生徒に「体験」を通して、持続可能な社会をつくるための「責任」を考え、感じてもらいたい。また、生徒が社会に出て、働くことで何かしらの社会貢献をする際、それが持続可能であるか、あるいはその職業分野で何かしらの「変革」「新しい価値」をもたらすものであるか、考えるきっかけとしたい。



7. 単元計画 (全 12 時間)			
時	ねらい	学習活動	資料など
1	「知る」 ニュースを観てプラスチックゴミの現状 (日本のプラスチックゴミはどこへ行くの?) を知る	・ニュースを視聴する。	ニュース動画
2	「体験する」 地元の海岸にあるプラスチックゴミの量を直視する。	・海岸清掃ボランティアに参加する。 スポ GOMI に参加して、どこに、どれだけのゴミがあり、回収するのにどれだけ大変かを体験する。	
3	「知る」 世界に確かに存在する難民の現状を知る。	・難民についての資料を読み取る。 ・ワークシートに記入する。	UNHCR 難民資料
4	「理解する」「気づく」 ユニクロ・GU の社員から、難民に服を届ける意義や製品を無駄にしないという価値観を学ぶ。	・講演を聴く。 ・自分たちにできることを考える。	ユニクロ・GU の資料
5	「表現する」 自分の意見を表現する。他者の文章にも触れ、価値観の共有をする。	・作文を書く。 JICA 国際協力エッセイコンテスト、五井平和財団国際ユースエッセイコンテストに応募する。	JICA 国際協力エッセイコンテスト資料 mundi
6	「知る」「理解する」「気づく」 ・なぜ持続可能性が求められているのかを考える。 ・今の社会システム、経済活動、消費は持続可能性が高いか、を考える (持続不可能な社会を考える)	・身の回りにある持続「不」可能な状況の例を挙げる。意見をシェアする。 ・持続「不」可能な状況で挙げた例から、持続可能な循環社会を創るにはどのようなことができるかを考える。 ・「江戸時代の循環型社会」を参考に、比較、例示を考える。 (個人の意見→意見をシェア→発表) ・ワークシートに記入する。	JICA 地球ひろば 国際理解教育実践資料集「新聞を活用して持続可能な社会を考えてみよう」
7 本時	「行動に向けて考える」 ・レジ袋の有料化について考える。 ・自分たちにできそうなことをグループで話し合い、他者を納得させる説明力、提言力を身につける。	・ワークシートに沿って記入、議論する。 ・海岸清掃の活動について振り返り、感想をペアで共有する。 ・ワイシャツを開封する。 ・ニュース動画を視聴する ・レジ袋の有料化について、プラスチックの「使いやすさ」、「衛生面」、「プラスチックの使用量」などの観点から考える。 ・実際に服のチカラプロジェクトに参加して、事前に行った難民の子どもたちにメッセージをグループでシェアする。 ・企業に対しての提言を考える。 ・消費者としてどのように「つかう」のいいかを考え、ワークシートに記入する。	・ニュース動画 (13 分) ・ブルボンのニュースリリース
8 9	「行動する」 できること、できそうなことをまとめる。	・インターネットや書籍を使用して、日本にいる高校生が、無理なくでき、社会・国際貢献につながるような行動を考えたり、既にある仕組みに参加する。	
10 11 12	「振り返る」	・行ってきた活動が自分をどのように動かしたか、どのように考えを変えたか、などを振り返り、今後の行動につなげる。	

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
<p>8. 本時の展開 (概略)</p> <p>本時のねらい：①レジ袋の有料化について、プラスチックの「使いやすさ」、「衛生面」、「プラスチックの使用量」などの観点から考える。</p> <p>②自分たちにできそうなことをグループで話し合い、できることを適切な表現を用いて、他者を納得させる説明力、提言力を身につける。</p>	<p>「海岸清掃などを通してプラスチックゴミやタバコの吸い殻を中心に回収しました。どんな感想を持ちましたか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想よりもゴミが多くあって驚きました。 ・外国から流れ着いたゴミもたくさんありました。 ・本当に小さなプラスチックの欠片があり、魚を経由して人体に入る可能性は十分に考えられます。 	<p>プラスチックがすべて「悪」というわけではなく、できるだけ減らしたいという考えを共有する。</p>	 
<p>展開 1 (25分)</p>	<p>「先日、ワイシャツを買いました。未開封のワイシャツを持ってきたので開けてみてください。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不要なプラスチックが多く使われています ・無駄だなあ ・商品をきれいに見せたいのはわかるけど、それなら紙で代用できるはず <p>「ある高校生が、新潟の企業に過剰包装をなくせないかと声をあげました。そのニュースを観てみましょう。」</p> <p>「この高校生はどのような想いでこの行動をとったのだろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少しでもプラゴミを減らしたい。 ・日本は特に不要な包装が多いので、お菓子にも当てはまると思った。 ・お菓子を食べるたびに、一種の罪悪感を覚えてしまうかもしれない。 <p>「亀田製菓さんはどのような取り組みをしていましたか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包装袋を小さくした。 <p>「同じくブルボンさんの取り組みはどうでしたか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物由来のプラスチックの活用に変更する。 	<p>【ワークシートに沿って行う】</p> <p>グループでワイシャツの袋を開ける。</p> <p>生徒たちに感想を尋ねる。</p> <p>お菓子メーカーで有名な新潟の企業(高校生にとっても身近な企業)であることを確認する。</p> <p>小さな行動が社会に変革を起こすことがあるということを認識させる。(自分たちにもできることがある)</p> <p>ブルボンのニュースリリースを配付する。</p>	 <p>録画したニュース映像 (新潟放送 BSN 8月21日)</p> <p>「新潟から SDGs お菓子の過剰包装なくせませんか ～ある高校生の想い～」</p>  <p>ブルボンのニュースリリース</p>

<p>展開 2 (10分)</p>	<p>「今、衣料業界も大きな問題を抱えています。外出自粛などもあり、新品の服が大量に余っていること、着なくなった服の処分でも環境にも悪影響が出ています。服のチカラプロジェクトで、自分と難民をつなぐ活動に参加してみてもどんなことを感じましたか。」「先日記入したメッセージカードをグループ内でシェアしてみましょう。」</p> <p>生徒のメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国内で、難民の人たちに支援することができた。できることからやるのが大切だ。 ・少しの意識と工夫で、いろいろなことが形になって支援できる。 ・一人ではできないことも協力するとできることがたくさんある。 ・今後も進学先などで呼びかけたい。 	<p>一人だとなかなかできないようなことも、クラスや学校など、協力することが大きな一歩になることに気付かせる。</p> <p>記入済みのメッセージカード</p>	 
<p>まとめ (10分)</p>	<p>「SDGs 達成に向け取り組んでいる企業(生産者)にさらにどのようなことを求めたいですか。服のチカラプロジェクトを通して、経験できたからこそ言える意見をユニクロ・GU さんに提言しよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在も取り組んでいると思いますが、必要な分だけを作るためにも、市場調査を入念にしてもらいたい。 ・リサイクル活動をもっと広げる取り組みを一緒に行いたい。 <p>「日常で使う様々なプラスチック製品、衣類、レジ袋。私たち一般消費者はどのようなことを意識して「つかう」必要があるでしょうか。」</p> <p>「これから個人で取り組んでみたいことをワークシートに記入してみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な分を購入するように心がけたい ・すぐに捨てないで、使えるうちはなるべく使うようにしたい ・リサイクル、リユース、リデュースを意識した生活をしたい ・プラスチックは適切に処理されるべきだ 	<p>今回の活動では生徒の大きな成長を見ることができたが、今後、自分でどう行動していくかを考えさせる。</p> <p>ワークシートに記入させる</p>	

<p>9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）</p> <p>①自分の考えや意見を適切な表現で述べ、反対意見に対して、相手を責めることなく留意しているか。 （ワークシート、観察）</p> <p>②プラスチックの便利さや衛生面などを利点を踏まえ、使用量の制限を考えられているか。（ワークシート）</p>
<p>10. 学習方法および外部との連携</p> <p>1 スポ GOMI 運営事務局新潟県支部</p> <p>①海洋ゴミの実態と影響について説明。</p> <p>2 GU 社員による、出張授業</p> <p>①服のチカラプロジェクトの概要、目的、具体的な行動などについて説明。</p> <p>②難民についての基本的な知識を確認。</p>
<p>11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み ここも記入します</p> <p>総合的な探究の時間の研究授業として、校内の先生に見てもらおう（外部の方の来校に制限がありません）。</p>

【自己評価】

<p>12. 苦労した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生にとって「行動する」ことへのハードルは高いように思えるが、当然のことであり、いかにハードルを低くしてあげられるかを考えた。身近な事象へ落とし込むことが大切だと感じた。 ・賛成・反対の両意見を平等に提示し、教師の主観・誘導が出すぎないようにしたこと。（レジ袋有料化に関して、SDGs の知識をある程度持っている生徒だったので、勝手に全員が賛成だと思っていたが、反対意見の生徒もいた。結果的に議論が活発になった）
<p>13. 改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実物を見せるためにワイシャツを用意したが、いつも用意できるものではない。（たまたま購入したものを使用した） ・ある程度の SDGs の知識があった方が進行しやすいので、事前に予備知識を与えておく必要がある。 ・時間が足りずに、予定していたすべてを行うことができなかった。時間配分や、コンテンツを見直したい。
<p>14. 成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プラゴミ問題や服のリサイクルについて、自分たちにもできることがあるという「気づき」を得ることができた。 ・外部との連携を通して「行動する」ことへのきっかけ作りをすることができた。 ・新潟の企業や高校生の起こした行動を取り入れたので、身近な事象として捉えていたようだ。「国際貢献」、「SDGs」と聞くと、「何か大きなことをしなくてはならないのか」という誤解が解けたと感じている。

15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	別紙ワークシート
16. 授業者による自由記述	<p>「自発的・主体的な行動へつなげたい」と計画を練ってきたが、生徒の心へ響く起爆剤を与えられたらどうか。今すぐでなくても、何年後、十年後に、今回の学びが基になり持続可能な社会の作り手としての行動を期待する。</p> <p>授業を受けた生徒たちのほぼ全員が、高校に入学してから SDGs の存在を知ったそう。今後小学校や中学校でも SDGs を通しての学びが増えてくると思うので、一通り学んできた生徒たちに対して、「高校での学び」をブラッシュアップしていく必要があると感じる（社会人としての行動や興味関心のある SDGs の分野から進路選択をするなど）。</p> <p>意識したことは「自分ごととして行動へつなげる」ということだが、今回の授業や全単元でうまく作用したとしても、反対にうまくいかなかったとしても、「自分ごと」について、もう一度考えてみたい。</p>

参考資料：

※単元を構想、実施する上での教師のための参考資料、学習者のための参考資料、ウェブサイト、データリソースなどを紹介してください。